生体防御検査学演習（Graduate Seminor on Biodefense Examination）

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
星野 真理	１年次 後 期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	感染防御に主要な抗原特異的な獲得免疫応答、さらにはその分子制御機構、応用面として医療・検査への適用についての知識習得は必須である。生体防御検査学演習Ｉでは、生体防御に関する免疫学的基礎事項はもとより免疫学、微生物学に関連した、医療・検査に用いる技術も学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（星野）が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」及び⑤「自ら積極的に臨床検査学の課題を探求し、主体的に解決しようとする能力と研究的視点を備え、科学的探究心を持ちながら継続的に研究を遂行できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	1. 生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法を習得する。 2. 生体防御検査学の研究遂行に必要な基礎知識を習得する。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／予め指定した論文を読み、その内容を概説できるようにしておくこと（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／教科書・配布資料で復習を行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回	免疫の概要１	星野真理
	第 2 回	免疫の概要２	星野真理
	第 3 回	獲得免疫の概要１	星野真理
	第 4 回	獲得免疫の概要２	星野真理
	第 5 回	獲得免疫の作用機序1（講義）	星野真理
	第 6 回	獲得免疫の作用機序2（講義）	星野真理
	第 7 回	獲得免疫の作用機序3（文献抄読）	星野真理
	第 8 回	獲得免疫の作用機序4（文献抄読）	星野真理
	第 9 回	獲得免疫の作用機序5（文献抄読）	星野真理
	第 10 回	獲得免疫の作用機序6（プレゼンテーション）	星野真理
	第 11 回	獲得免疫の作用機序7（プレゼンテーション）	星野真理
	第 12 回	獲得免疫の作用機序8（プレゼンテーション）	星野真理
	第 13 回	免疫受容体とシグナル伝達1（講義）	星野真理
	第 14 回	免疫受容体とシグナル伝達2（講義）	星野真理
	第 15 回	免疫受容体とシグナル伝達3（ゼミ）	星野真理
	第 16 回	免疫受容体とシグナル伝達4（ゼミ）	星野真理
	第 17 回	粘膜免疫1	星野真理
	第 18 回	粘膜免疫2	星野真理
	第 19 回	生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法1（講義）	星野真理
	第 20 回	生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法2（文献抄読）	星野真理
	第 21 回	生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法3（文献抄読）	星野真理
	第 22 回	生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法4（プレゼンテーション）	星野真理
	第 23 回	生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法5（プレゼンテーション）	星野真理
	第 24 回	生体防御検査学の研究遂行に必要な技術・手法6（まとめ）	星野真理

評価方法 評価基準	レポート（60%）、プレゼンテーション（40%）をあわせて評価する（100%）		
教科書	『分子細胞免疫学』　エルセビアジャパン	参考書等	必要に応じて資料を配布する。
学生への メッセージ	生体防御検査学は医療において非常に重要である。免疫学的に主要な学修を行うので、授業中に積極的に発言するよう心掛けること。		